

学校名：新発田市立本丸中学校
 校長名：齋藤 秀夫
 所在地：新潟県新発田市緑町2丁目7番22号
 電話番号：0254-22-2525

川東中学校	1	0	1	1
猿橋中学校	5	0	5	
東中学校	1	0	1	
計	18	0	18	1

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、昭和24年創立、今年度で創立63年を迎える市内でも歴史のある学校である。

本校では、各部活動が盛んで、全ての運動部が地区大会に進むなど、各種大会で実績を上げている。特に全国大会優勝の実績がある男子バスケットボールを中心に活動が活発である。ラグビー部においては、地域に新発田市ラグビースクール（以下スクール）や新発田市総合型スポーツクラブとらい夢（以下とらい夢）があるため、指導や支援・協力を得ている。そのため、ラグビー部には、新潟県選抜として全国大会を経験している生徒も多い。

2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	5	5	5	3	18	
生徒数	男	93	99	100	9	301
	女	92	84	77	3	256
	計	186	191	181	12	557

教員数 35名（保健体育科 4名）

○ 運動部活動の状況

陸上競技部（71人）、野球部（49人、外指1人）、サッカー部（39人）バレーボール部（18人）、バスケットボール部（60人）、ソフトテニス部（81人）、卓球部（50人）、柔道部（14人）、剣道部（12人）、新体操部（26人）

○新発田市中学校ラグビー部（複数校運動部活動）

学校名	部員数			外部指導者数
	男	女	計	
本丸中学校	9	0	9	
第一中学校	2	0	2	

II 活用事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

- 各種大会に遠征することで、より高い目標をもった活動が展開できるようになった。
- 練習に課題意識をもたせる指導方法で、生徒のラグビーに対する関心意欲が高まり、一人一人が集中し、練習を楽しむようになった。
- より経験豊富な指導者の協力により、専門的で細やかな指導を通して、生徒の技能習得に効果的であったとともに、教師も指導、練習方法を学ぶ、よいきっかけとなった。
- 部員募集ポスターやチラシの配布により、新入部員の獲得だけでなく、ラグビーの普及活動につながった。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

地域スポーツ人材を活用した複数校合同運動部活動の在り方

(2) 研究テーマ設定のねらい

新発田市にはスクールがあり、10年以上にわたり地域のラグビーを支えてきている。

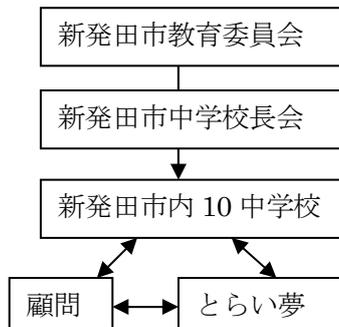
新発田市中学校ラグビー部は、市内10中学校の生徒が入部することが可能な部活動として、平成18年に創部、今年度で5年目を迎えた。中学校ラグビー部の創部当初はスクールで経験してきた生徒が中心であったが、地域や学校の協力もあり、勧誘をきっかけにラグビーを始める生徒が増えてきている。今年度、17名のうち、12名が中学校から始めた初心者である。また、これからは、小学校学習指導要領改訂に伴い、小

学校においてラグビーの楕円球に親しむ子供が増えることから、中学校に入学してラグビーを始める生徒が増えると予想される。

そのため、今後は、教員が初心者に対して安全面も含めた適切な指導方法を獲得するとともに、県内唯一のラグビー部として、継続的な活動をするための対策が望まれる。

本事業では、新発田市やとらい夢の協力を得ながら、複数校合同部活動の在り方について考えていくことをねらいとした。

(3) 取組体制



平成 22 年度配布ポスター，チラシ

(4) 本事業における主な取組

平成 20 年度	H20. 9. 18 ディスクコーン購入 H20. 9. 29 ラグビーボール購入 H20. 10. 28～ グラウンド投光機設置，借用 H20. 10～H21. 2 外部指導者を招へい（39 日） H21. 3. 18 部員募集ポスター，チラシを配布
平成 21 年度	H21. 4. 14 部員募集のための公開練習 H21. 6. 13～14 山形第一中ラグビー部との初練習試合 H21. 8. 8～8. 9 第 30 回東北交流大会に出場（八幡平市） H21. 11. 21～22 山形第一中との交流試合（山形市） H22. 1. 31 高崎スクールとの交流試合（高崎市） H21. 6～H. 22. 2 外部指導者を招へい（40 日） H22. 3 部員募集ポスター，チラシを配布
平成 22 年度	H22. 6. 12～13 第 61 回関東大会に出場（熊谷市） H22. 6～H22. 10 外部指導者を招へい（68 日） H22. 10. 2 第 30 回東日本中学校大会予選に出場 （松本市） H23. 3 部員募集ポスター，チラシを配布



第 30 回東北交流大会（対 秋田北中）

2 活動及び活用事例

(1) 各種大会、交流試合への遠征

① 目的

練習試合や大会への参加により、生徒の練習に対する目的意識を向上させる。

② 交流、大会参加までの歩み

中学校ラグビー部として初めての対外試合は、平成 21 年 6 月に行われた山形第一中ラグビー部との交流試合である。

これまで、県内に中学校ラグビー部がないため、練習試合は近隣の高校生や社会人のチームが相手であった。

そこで、平成 20 年 12 月に山形第一中に連絡を取り、交流試合を行うことになった。このことがきっかけとなり、同年 8 月に開催された東北交流会に参加し、初の遠征が実現した。

また、今年度の関東大会、東日本大会への出場も果たし、今後の目標にもなった。

③ 成果

ア 事業支援によって各種大会や練習試合に参加することができるようになった。

イ 大会や練習試合に積極的に参加することで子供の意識が変わり、練習に対する姿勢が格段に向上した。



22 年 6 月関東大会開会式（熊谷ラグビー場）



22 年 10 月東日本大会（対旭が丘中）

(2) 外部指導者による指導

① 目的

より経験豊富な指導者による、基本的な技術指導を通して、ラグビーに親しむ。

② 外部指導者の効果

- ・課題を明確にした練習
- ・基本技術の反復練習
- ・体力向上のトレーニング

安全に配慮した様々な練習の提案、実践

生徒の技術向上

ラグビーへの興味、関心の向上

③ 成果

ア 生徒は、上達のポイントやコツを練習の中で、身に付けることができた。

イ 練習に目的や課題を提示することで、生徒が楽しみながら練習に取り組むようになり、練習前後に自主練習に励むようになった。

ウ 今年度は最多、68 回の指導を 6～10 月にかけて協力していただいたことで、顧問自身がより効果的な指導方法や練習内容を学ぶよい機会となった。



限られたスペースでのパス練習

(3) 部員募集ポスターの配布

① 目的

各小中学校にラグビー部の活動を発信し、より多くの部員確保を目指す。

② 具体的な方法や取組の様子

新発田市生涯学習課ととらい夢と連携しながら、ラグビー部員募集ポスター及びチラシを作成し、配布を行った。

広告の主な内容として、練習日や練習会場、時間等をはじめ、裏面には現部員からのコメントも載せて配布した。配布する対象や枚数を検討する中で、より多くの子供がラグビーに興味をもってもらえるよう、配布対象に小学校も加え、ラグビーの存在に気付いてもらえるようにした。また、高校進学後の選択のひとつにと考え、中学3年生に普及の一環として配布した年もある。

22年度の新入部員の一人に、小学校体育授業でタグラグビー（体の接触のないラグビー）を経験した生徒が、広告を見たことで、入学前から活動に参加していたこともあった。

③ 成果

ア 部員募集ポスターやチラシを配布したことによって、入部希望者やラグビーを知る機会が増えた。また、部員もチラシで活動が伝わることによって自己の存在感が高まり、勧誘活動に尽力した。

イ 関係各者との連携から、地域の中での知名度の向上に効果的であった。

3 今後の展望

(1) 成果

① 県内で唯一のラグビー部として、創部から4年目に対外試合を行うことができた。これをきっかけに、部の目標が明確になり、部員の練習に対する姿勢が良くなった。また、遠征を経験し、同世代との交流の中で、自分たちの課題を確認する機会にすることができた。

② 外部指導者の指導によって、ラグビーをはじめと間もない生徒が、安全に活動でき、着実に技術が向上できるような練習プログラムを行えた。練習においても、スモールステップで上達可能な課題を少しずつクリアすることで生徒自身が楽しみながら技術の向上を実感していた。また、練習内容等が参考になった。

(2) 課題

① 複数校合同であるため、練習場所や時間の調整が困難な場合がある。そのため、外部指導者等を活用した複数指導者での活動を支援できる環境が望ましい。

② ラグビー競技の特性上、首や頭部などの安全性を含めた初心者の指導について学ぶ必要がある。

③ 複数校合同であることから、各学校での部活動の活動費用等の資金的援助がない中で、部の用具や施設利用費、消耗費、遠征費等の援助が受けられない現状にある。遠征が県外であることもあり、各生徒、家庭への負担が多い。

④ ラグビー部として、参加してきた大会に今後も継続して出場していくために、部員確保のための勧誘活動や部員募集ポスター等を活用して、効果的に行うことが求められる。



【入部申込書】

部員募集チラシの裏面